

■（１５３）全記者の競争の場「元日紙面」で異例の展開

元日の朝刊は特ダネや企画内容を競うコンペだ。新聞社間だけでなく、社内でもそう。テーマはまさに百花繚乱。どの社の、どの記者が書いた記事が良かったかが、正月明けの新聞社の関心事で、公式の勝敗分析もまとめられてきた。だが、今年は異例の展開だった。

朝日新聞が全国統一テーマを掲げた。新聞社内で「本紙」と呼ぶ全国向けのページに加え、地域のニュースをまとめる「地域面」にも同じロゴ「教育２０１４」。デジタル版の地域ニュース一覧面も「教育２０１４」のタイトルがずらりと並び、「システムトラブルか」と一瞬勘違いするほどだった。

もちろん、同じテーマの中で各地の記者は独自色を競い合ったが、それでも「全国でテーマを統一した」という編集方針への衝撃が上回った。黙っていても新聞を読んでもらえた時代は遠い過去の話。「自社商品」の特色を強くアピールしないと生き残れない時代になっていることを、まさに実感させられた新年特集だった。

小欄を始めて４年目に入った。東日本大震災で東北にいた１年間を含め、新聞と教育の現場がもっと近づくことを期待しながら書き続けている。ときどき教壇にも立ちながら。
（山）